

緑化の推進



獅子吼高原アウトドアFes.「もりもりの森」& 森のふれあい音楽会

石川県白山市



事業概要

“森を知るには、まず森に行き、森に親しむことから”と
 いった考えから、県民参加型の様々な事業を展開している。
 10月に開催した「獅子吼高原アウトドアFes.&森のふれあい
 音楽会」では、石川県白山市の獅子吼高原一帯で、芝生広場
 仮設ステージを設けて屋外ライブや広葉樹の植栽、更には
 森を巡るクイズラリーといった多彩なプログラムにより、
 森で楽しく過ごしながらか森林保全の必要性を石川県民に理
 解してもらった。

事業成果

コロナ禍にあり、人々を集めても密にはさせないという
 課題に直面する。集客要素のワークショップなどを取りや
 め、屋外での音楽会、植樹、森を巡るクイズラリーといっ
 た参加者間の距離が保てるプログラムに絞る。来場者は昨

年の30%強の約700人とはなったが、森という開放された
 空間が如何に貴重かということを理解してもらえた。

事業をよく知る関係者の声

- ・本年の開催は危惧されたが、感染防止策を十分に取っ
 いただき、結果として素晴らしいイベントになった。感
 染リスクの少ない森を会場とし、適度な参加人数、感染
 症対策を取った今回の催事を成功例とし、今後も安全で
 楽しい森を維持していきたい。(獅子吼高原施設支配人)

参加者の声

- ・今年のは出かける事ができず、子どもたちの不満が溜まっ
 ていたが、これならばと応募した。植樹という形で何か
 残せるのは大変良い。(植樹体験)
- ・自然に囲まれた中で音楽を楽しめて良かった。(屋外フェ
 ス)



植樹の説明



クヌギを植樹



森の音楽会



クイズラリー

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：20本
 音楽会（屋外フェス）：1回
 森のクイズラリー：1回

参加者数

県内：700人
 計：700人

樹種

クヌギ

「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業

宮城県登米市、南三陸町



事業概要

緑とのふれあい等を通して、沿岸被害住民と山村住民の交流も図りながら、東日本大震災からの復興を誓うと共に森林づくりの重要性を普及する。

事業成果

コロナ禍により、昨年度に引き続き南三陸町の被災者との交流活動を回避するため分離開催となったほか、参加者数を抑えながら式典や活動の簡素化を図った。そうした制約の中での開催であったが、参加者にとって心が和み、楽しいひとときを過ごすことができた。特に被災地住民参加者からは、コロナ禍で外出する機会が少ない中での野外活動であり、さらなる継続を望む声が大きかった。

事業をよく知る関係者の声

新型コロナウイルス感染予防対策で開催が危ぶまれたが、

開催方法や移動手段を工夫して開催することができたと思われる。参加された被災者の方々の笑顔が印象に残り、来年も感染予防対策をしっかりと講じながら開催していただきたい。(ボランティア団体)

参加者の声

- ・自然の中でおもいきり活動ができ、とても心が癒やされた。野外での作業は気分が爽快です。(70代女性)
- ・植樹活動をしてからあらためて海を見渡すと、また復興に向けて頑張ろうと前向きな気持ちになれた。(70代男性)
- ・地球温暖化を防ぐために、森林をもっと大切にしたい。(小学生女子)
- ・友達や家族に今日の体験で知った森林の大切さを話して、これからも活動していきたい。(小学生男子)



広葉樹を植樹



ドングリを播種



県産材で加工された小箱の組み立て



被災地住民ほかによる植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：439本
播種活動：1回
山菜採り：1回
木工教室：2回

参加者数

県内：205人
計：205人

樹種

ヤマザクラ、ヤマツツジほか

「森と海を結ぶ・絆の森林づくりプロジェクト」事業

宮城県石巻市雄勝町



事業概要

東日本大震災からの復興と被災から甦った「みやぎの豊かな海」を県内外に発信する全国豊かな海づくり大会を見据え、そして、コロナ禍で分断される中、森と海、そして人々の絆をさらに深めていくため、沿岸養殖漁業の盛んな雄勝湾に流れ込む北上川支流域にある荒廃森林を対象に、森と海の関係者らが協働して健全な森林の回復をめざし、植樹活動を実施。

事業成果

本県では、「森は海の恋人」に象徴されるように牡蠣養殖業者が上流域の山で植樹活動を行ってきたが、地域が限定されて広がりを見せていなかった。本県での「全国豊かな海づくり大会」開催が間近に迫る中、「森と海」の関わり、森も海も豊かにする森林づくりの意義を関係者へ伝えることができ、また、今後の森と海との関係者による協働活動に一石を投じることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・県においても森と海の交流促進策として、沿岸域での森と海との協働活動の実施を描いていたところであり、願ってもない事業である。ポスト海づくり大会に向けて、その先鞭として当該事業を参考にしていきたい。(県水産林業政策室長)

参加者の声

- ・大変有意義な活動であった。とりわけ沿岸漁業の盛んな地で人の手によって森林づくりをすることは、海を守ることに繋がる。(60代森林組合代表理事組合長)
- ・近年、貝毒の発生を頻繁に起こす海洋環境の悪化や、湾内周辺の森林がマツ枯れ等で荒廃していることを危惧していた中での植樹活動は、大変ありがたく思う。今後も森林に支えられた豊かな海で美味しい海産物を提供していきたい。(60代漁協運営委員長)



記念植樹



アカマツ、ヤマザクラを植樹



植樹参加者



作業以前の荒廃したマツ林

実績とりまとめ

作業内容

植栽面積：0.1ha

植栽本数：251本

参加者数

県内：70人

計：70人

樹種

抵抗性アカマツ、ヤマザクラ

ラグビーワールドカップ2019後のコミュニティ再生を目指す大槌湾海岸防災林植樹事業

岩手県釜石市



事業概要

東日本大震災により被害を受けた海岸防災林の再生には、世代を引き継いで行われる息の長い活動が不可欠である。釜石市根浜海岸の海岸防災林再生を軸に、大槌湾に面したエリアの景観の創造をめざした。主な活動は、海岸防災林の再生と浜から海岸林までの景観を創り上げるために、植樹、海浜植物の種まき、植替え活動、海浜の清掃活動である。ラグビーワールドカップ2019招致に地域を挙げて取り組んだ根浜地区の住民の協力を得、さらに、NPOおよび自治体の連携のもと釜石東中学校全学年の活動参加を果たすことができた。

事業成果

新たに海岸に捨てられたり流れ着いたりしたごみを考える視点を盛り込んだ授業を行った。中学生たちが実地でごみを拾い集め、それを観察、分析し、考察を加えて発表することで、地元の海岸を含む、海浜全体の環境保全まで視

野を広げて考えることを促す活動とすることができた。地元の自治会や行政や企業などが共に汗を流すことで、世代を引き継ぐ活動として成果を上げている。そんな中、地元の若者が中心となり新たに「根浜ハマナスプロジェクト実行委員会」が組織され、活動の基盤がより強められた。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動が継続されてきたこと、生徒たちの姿を見て感激ばかりでした。中学生が大人になった時にまた、さまざまなことを思って根浜を訪れるのだろうと思い巡らせることができた。(地元自治会)

参加者の声

- ・中学に入って、苗の植え替えなどの作業を初めて体験した。来年からは後輩に伝えていきたい。(中学生)
- ・マツを育てていくことで、海岸の環境を守ることに役立つことがわかった。(中学生)



ハマナスの移植



子どもたちも参加



中学生による海岸清掃



海岸清掃で集まったゴミ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.4ha
 下刈面積：1.4ha
 海浜植物種まき：800個
 海浜植物移植：800本

参加者数

県内：433人
 計：433人

熊本地震復興支援事業(学校緑化)

熊本県菊陽町、御船町、益城町、甲佐町



事業概要

平成28年熊本地震による被災地域において、地域の復興を支援するため、学校や幼稚園、保育園等周辺の緑化により、子どもたちの共同生活の充実を図るとともに、緑の大切さや木のぬくもりを感じてもらおう事業を行う。

事業成果

今年度は、特に被害の大きかった地域の幼稚園や災害公営住宅等に植樹80本を配布し、緑による潤いを被災者に届けることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新しく建て直した幼稚園や保育園の園庭に緑がなく、樹木が園の潤いになるほか、初めて木を植える園児も多く良い経験をさせてもらった。(県、市町村の担当者及び各施設の園長)

参加者の声

- ・地域住民や生徒がみんなで植栽や水やりを行っており、木や花が大きくなるのが楽しみ。



サクラを植樹



大きく育つよう願って

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：80本

参加者数

県内：200人

計：200人

樹種

サクラほか

うなぎの森植樹会

大阪府高槻市



事業概要

森と川と海は一体であり、腐葉土が水中のプランクトンの養分になり、水生生物の餌になる。森林の管理の大切さを人々に知ってもらうとともに絶滅危惧種の淀川のウナギの生息を増やすために、台風被害で大量に風倒木が発生した高槻市上流の森林において植樹活動を行った。

事業成果

台風被害地で植栽を実施。人々に自然災害の恐ろしさや早期に森林の復旧を図ることの大切さを体感していただい

た。うなぎの森の記事が全国紙に掲載され、全国の人々にその趣旨を理解していただけた。

事業をよく知る関係者の声

- ・毎年参加しているが植栽木が成長していくのが励みになる。国土緑化の大切さが良くわかる。(府木連会員)

参加者の声

- ・植樹活動に参加して自然守り、緑を育てる大切さが良くわかった。緑の募金の意義も十分に理解できた。



植樹の前に作業の説明



ヤマザクラ、カエデを植樹



ネットで苗木を保護



ウナギ植樹祭参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
植付本数：120本

参加者数

府内：50人
計：50人

樹種

ヤマザクラ、カエデ

千葉の里山で竹林整備と台風被害林復旧活動

千葉県市原市、大多喜町



事業概要

春にタケノコを収穫できるような竹林をめざして整備活動すると同時に台風被害からの復旧作業も行い、地域コミュニティをつくる。

事業成果

台風被害からの復旧が進み、竹林の活用について積極的に行えた。竹林内でアーティストによる撮影なども行われるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・竹林整備は全国的に行われている。その中で整備した竹

林からタケノコや幼竹を出荷し、国産メンマプロジェクトが活発になっている。その取り組みのリーダーよりこの取り組みは評価に値すると言われている。(国産メンマプロジェクト代表)

参加者の声

- ・身近にある竹林の整備の方法がわかって良かった。地域資源を活用することの大切さがわかった。(高校生)
- ・自然と触れ合うことと竹林がきれいになることに参加できてうれしい。(50代女性)



竹林整備



高校生による竹林整備



タケノコ掘り



薪割り

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：1.2ha

薪作り：5m³

竹炭づくり：900kg

参加者数

県内：141人

県外：26人

計：167人

ボランティアによる参加型の日向の森

千葉県山武市



事業概要

都市住民や地域住民を対象に、人工林の保全作業を通じた自然環境への理解促進の活動を実施した。初心者でも参加しやすいよう、季節ごとに作業内容に変化を持たせつつ、活動で安全性が確保されたフィールドで森林環境教育イベントを計画。令和元年9月の台風により活動地の日向の森でも甚大な被害が発生したため、その復旧を主とした活動を行ってきたが、ようやく目途がついてきた。一方、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、予定していた活動や環境教育イベントは縮小及び中止せざるを得ない状況となったが対策を講じながら活動は継続した。

事業成果

感染症拡大により参加者を多く募っての活動が困難となったため、スタッフによる巡回と維持管理を実施しながら、活動が実施できる状況の際は、国土緑化推進機構のガイドラインを参照し、活動を継続することができた。事務局と

して、ソーシャルディスタンスを保ちながら活動を継続するためのノウハウを蓄積することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・通常の伐採であれば現状の道具でも対応できるが、危険木除去などの特殊な作業を行う場合にはロープの強度不足や滑車、チルホールなど不足している道具が多い。熟練者が少ないため道具の選定にはより注意を払いたい。(危険木除去委託先NPO代表)

参加者の声

- ・雨天時の緊急避難場所などを確保しておきたい。また水回り(水道や水洗トイレ)が脆弱なので、改善したほうが良い。(定例活動リピーター)
- ・学校がSDGsの取り組みに積極的なこともあり参加したが、リフレッシュの機会になり森づくりに貢献できたという実感も沸いた。(大学生)



下刈



7年前に植樹したスギの枝打ち



子どもたちの伐採体験



植樹作業参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：157本
 下刈面積：0.5ha
 間伐面積：0.2ha
 散策路整備：1300m
 植栽地地拵え：0.2ha

参加者数

県内：85人
 県外：58人
 計：143人

樹種

スギ

【Furano Forest Style】植樹会と間伐イベントを通じた富良野・森づくり事業

北海道富良野市



事業概要

目的は、植樹や間伐作業を通じて、我々動物が生きていくために必要不可欠な森の役割を伝えることである。また、森づくり作業に参加することにより、地域の人（特に若い世代）を育てることにある。主な活動は以下のとおり。①元ゴルフ場跡地のフィールドに自分たちの手で穴を掘って木を植える。②森づくり活動の重要なフェーズである間伐の意味を知り間伐を行う。③間伐材を利用した調理やクラフトプログラムを開発する。④コロナ禍における外出自粛や自宅謹慎により溜まったストレスを森で解放する。

事業成果

コロナ禍における外出自粛や自宅謹慎により溜まったストレスを森で解放することを目的とし「へそ森クラブ」という活動を開始した。来年度以降も継続して実施したい。また、活動の意義と目的に共感してくれた林業従事者育成の

ための「北海道立北の森づくり専門学院」との連携が決まり、間伐作業や樹木調査の協力を約束してくれた。

事業をよく知る関係者の声

- ・採算目当ての人工林ではなく想いを持って育てている森なので、研究対象としてもとても興味深い。(林業学校関係者)
- ・地元でこのような森づくり活動をしているのを知らなかった。富良野市の強みとして、内外にアピールしていきたい。(市担当者)

参加者の声

- ・森と水の繋がり、森と生き物の繋がりなどを体験を通して学びました。また来たい。(20代女性)
- ・サウナが好きなので、間伐材を使ってサウナを楽しみ取り組みに可能性を感じている。(ボランティア)



植樹会



植樹ボランティア



間伐体験



間伐材を使った炭焼き実験

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.2ha
 植付本数：1149本
 間伐面積：0.8ha
 植樹会：4回
 間伐イベント：1回
 視察会：1回
 勉強会：2回

参加者数

道内：155人
 道外：7人
 計：162人

樹種

アカエゾマツ、イタヤカエデ、エゾマツ、オオバボダイジュ、キタコブシ、シナノキほか。

森と緑と湖のマチ、そらの森づくりプロジェクト

北海道弟子屈町



事業概要

遊休地となっている弟子屈空港跡地を観光客や地域住民が楽しむための森づくりをすることを目的としている。主な活動は、①自然を活かした観光資源の充実を図るための植樹活動、②環境に対する意識醸成と共生社会の実現をめざした木育教室の開催である。

事業成果

コロナ禍の中、開催自体も危ぶまれたが感染対策を十分に行っての植樹祭の開催となった。参加者も例年と比べ減少したものの、植樹面積の拡大、シラカバ並木の延長を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年ではできるかどうか不安だったが開催できて良かった。ソーシャルディスタンスによってちょうど良い植樹間隔が取れていた。今後も定期的なメンテナンスを行っていただきたい。(植生業者)

参加者の声

- ・コロナで開催中止かと思っていたが、今年も行ってくれて良かった。(40代女性)
- ・ただの荒地だったのがここまで木が増えると景色が良くなった。自分たちが植えたと思うと感慨深い。(50代男性)
- ・初めて参加したが、ここが飛行場だったとは思えないほど木が多くて驚いた。(20代男性)



植樹の事前説明



カラマツ、ハルニレ、ドロノキ、シラカバなどを植樹



植樹後



参加のみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：220本
 下刈面積：0.7ha
 苗床作り：1回

参加者数

道内：43人
 計：43人

樹種

カラマツ、ハルニレ、ドロノキ、シラカバ

いのちの森づくり植樹祭 IN おたる奥沢水源地 VOL8

北海道小樽市



事業概要

私達が地球環境を意識し、地域住民との協働で植樹を行う事で、防災や自然環境への意識を高めると共に、都市開発などにより多くの自然が破壊されるなか、その土地本来の植生がある「いのちの森」を守り再生させる。また、ここに暮らす人々が自然を愛し大切に思う心を育み地球温暖化問題を考えると一つとして、「いのちの森づくり植樹祭」を開催する。

事業成果

参加者はコロナ過での開催とあり、従来より少ない140人だった。近隣小中学校の参加も学校単位でも募集などはせず、家族単位での募集となり、今回は千年の森会員企業の

家族での参加が多くみられた。また、市内の団体（ロータリー・ライオンズ・青年会議所）が昨年に引き続き参加。小樽市が今後進める奥沢水源地の公園計画に向け、私達が植樹を続ける事により市民が寄与する市民公園造りとも主旨を共に、今後も環境教育との二本柱で事業を進めていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ過での開催で心配したが野外での活動でもあり、参加者が密になることもなく安心して植樹ができた。

参加者の声

- ・ホームページを見て、札幌から幼児を含む家族での参加した。楽しく自然に触れると共に植樹事業の重要性を再認識できてよかった。(20代女性)



ミズナラほかを植樹



142人が参加



参加のみなさん



植樹地

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.13ha
 植付本数：1374本
 樹勢回復：360本
 下刈面積：0.1ha

参加者数

道内：202人
 計：202人

樹種

ミズナラほか

オオヤマザクラ等の保育活動を通じた地域を結ぶ森林づくり

青森県弘前市



事業概要

目的は、津軽地方のシンボリック的存在である岩木山の麓の沿線に植えられた街路樹（オオヤマザクラ）の保育・保護と景観の維持及び体験林業と森林観察会の開催。内容は、①街路樹への補植、ツル切り、枯木・枯枝・被陰木の伐採撤去及び作業沿線清掃。②弘前城築城400年記念として植えた森へ補植、下刈・除伐・ツル切り及び森林観察など。

事業成果

街路樹の手入れは、毎年場所を変えて実施していることから景観が充実してきている。育樹会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から公募を取り止め小規模な森林観

察会を2回実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍もあり、積極的に活動に参加要請ができなかった割には作業回数、参加人員とも昨年を上回っており、頑張っていると思う。(協力関係にあるNPO理事)

参加者の声

- ・コロナ禍にあり、しかも私は義足を装備して家にいることが多い。友達に誘われ森のボランティアに参加させてもらった。清々しい森の空気に触れ感激した。(60代女性)



下刈、ツル切り作業



桜並木の手入れ



オオヤマザクラの補植



桜並木の周りのアカシア伐採撤去

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：12本
 樹勢回復：400本
 下刈面積：1.0ha
 除伐面積：1.0ha
 歩道修理：2km
 ベンチ設置：2基
 森の観察会：2回

参加者数

県内：120人
 県外： 5人
 計：125人

樹種

オオヤマザクラ

陸奥湾の植林と除間伐材の利用を学ぶ授業

青森県平内町



事業概要

平内町の社会貢献の森で、おいしいホタテを守る為に植林活動を展開する。その植林地の地拵えから出た除間伐材を利用して薪をつくり、利活用する事で、里山の雑木を活かした暮らしを振り返りSDGsの14「海の豊かさを守ろう」15「陸の豊かさを守ろう」を経験する。また、広葉樹のミズナラ・イタヤカエデ等を植林を通して、海を守る為には、山を守る事を高校生に体験を通して知ってもらった。

事業成果

地元平内町の松風塾高校から校長先生をはじめ生徒たちが参加してくれたのは、継続して植林や山の手入れを実践してきた結果である。また、青森大学・明けの星高校・青

森北高校・青森南高校・青森高校などから200人が参加した。また、薪割機を通して薪を林地残材として捨てることなく、利活用できて大変有意義な事を子ども達の授業で紹介できている。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ対策をしっかりとやっての植林活動だったので、安心してできる植林活動だった。高校生が生き生きと活動をしていたのがすばらしかった。(教員)

参加者の声

- ・山で木を植えたのは初めてで、こんなに大変だとは思わなかったが、初めて4本植えて感動した。満足感と充実感があった。(高校生)



整備した植樹地



高校生による植樹



除伐



薪づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：250本
 下刈面積：0.5ha
 薪割り：100本

参加者数

県内：236人
 県外：6人
 計：242人

樹種

ミズナラ、イタヤカエデ、クロモジ

沈黙しないでピカピカ里山にしませんか!

秋田県仙北市



事業概要

城下町に隣接した里山が住民の高齢化等により、利用されず放置されている状況を改善し、木の文化への理解と地域との交流を図ることを目的としている。主な活動は、①林内環境整備として刈払いやツル切り、②不良木の伐採とヤマザクラ植栽、③遊歩道整備の刈払いや階段の整備、④市民を対象してトレッキングの実施。

事業成果

足場の悪い箇所でのツル切り・刈払いの作業ではベテラン会員の指導もあり安全に作業実施ができた。また、階段については杭打ちに苦労したことから次の作業では施工に工夫する必要がある。

事業をよく知る関係者の声

- ・刈払い作業を継続的に実施することは大変だが、植栽等を含めて里山が目に見える形になってきており、市民の参加意識の向上に繋がる活動である。今後癒しの場としての機能が再生されることを願っている。(元教員)
- ・それぞれの参加者に合った条件で作業できるような環境を望む。(支援学校教員)

参加者の声

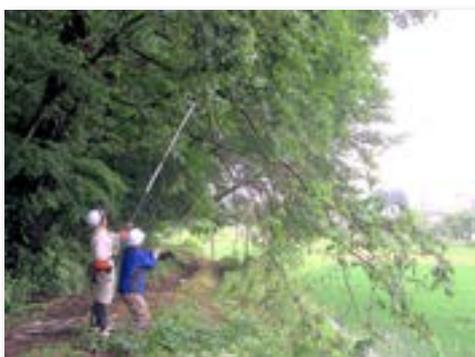
- ・これからの成長が楽しみ。(小学生男子)
- ・高齢者でも参加できるようなトレッキングコースがほしい。(60代女性)
- ・きれいに整備されている。また来たい(50代男性)



ベニヤマザクラを記念植樹



下刈



遊歩道の整備



トレッキング

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：11本
 樹勢回復：12本
 下刈面積：3ha
 遊歩道整備：3km
 トレッキング：2回

参加者数

県内：36人
 県外：10人
 計：46人

樹種

ベニヤマザクラ

八幡山桜(はな)の森整備事業 コブシ・ハンノキの森整備事業

山形県飯豊町



事業概要

農地としての再生が困難な元採草場を「里山の森」に再生することを目的に事業を始めた。桜の森のほか、早春・初夏・初秋の花木の森、新・深緑の森、紅葉の森を造り、雪解けから降雪までの期間、人々が楽しめる里山に整備する。今年度は、コブシ・ハンノキの森の整備を行った。

また、「森づくり」と「里山を考える」集いは、今年度は、自然林の重要性和非木材林産物の振興の必要性について山形大学農学部から講師を招き研修した。子どもたちに「森」に関心を持ってもらうために「森のホームステイ事業(山形県事業)」を行った。

事業成果

今年度は、湿地再生のためにコブシ・ハンノキの森を造成した。あわせて八重桜の森整備に着手した。第5回「里山を考える」集いを行った。自然林(広葉樹林)造成の重要性和、林業再生、農山村振興のカギを学んだ。「苗づくり」か

らの森づくり事業では、ブナ林から採取した稚苗を竹ポットに移植する作業を行った。子どものときから「森」と人間のかかわりや森の重要性を知る機会を提供する必要性、重要性を痛感している。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもの参加対策が必要、たとえば「焼き芋パーティ」を加えたらどうか。(協議会役員)
- ・講演内容が参考になった。問題は具体的にどう取り組むかだ。(参加者)

参加者の声

- ・植樹が短い時間で終わった、ほかのイベントを加えたらどうか。(60代男性)
- ・植樹、講演会、いずれもとても大事な取り組みだと思う。(40代女性)
- ・ノーカーボン社会をめざすなら森の大切さを知ること大切。(60代男性)



ヤマハンノキ、コブシを植樹



ブナの稚苗採取



補植作業



里山を考える集い

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：50本
 下刈面積：1ha
 講演会：1回

参加者数

県内：95人
 計：95人

樹種

コブシ、ヤマハンノキ

健康で元気な森林づくり

茨城県かすみがうら市



事業概要

手入れができず日の射し込まないヒノキ林を間伐ほかの作業をする事で、健康で元気な森林をめざす。活動内容は次のとおり。①ヒノキの間伐。②下刈を実施し、ヒノキや植樹した広葉樹の成長を促す。③雑木等を伐採し、平地や斜面を整備し、毎年11月に行う地域交流会の企画として、広葉樹の植樹を行う。④ヒノキ間伐材でコースターや箸を参加者つくる。⑤森林の整備は、地球温暖化防止に貢献している事をパンフレットやポスター等で啓蒙。⑥間伐したヒノキ皮を剥きスウェーデントーチ等必要な方に提供をしていきたい。⑦活動場所の近くを流れる天の川の水質検査。地域の方々と子供会の協働で実施、霞ヶ浦をきれいに・川をきれいにの合言葉で活動している。

事業成果

新型コロナウイルス禍の中で活動を実施した。体調管理、マスク着用等の励行を促した。このような時期に新規加入者

があった。また近隣の施設や個人宅から間伐の依頼を受け、参加者、装備や傷害保険等の活動環境の充実を図り、作業に取り組んだ。依頼者から感謝の言葉を頂き、信頼関係の構築が深まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域交流会の集いがあり、会員と一緒に広葉樹の植樹や間伐したヒノキで箸づくり、地球温暖化防止の講話があり、すごいことをやっているんだと感じた。(地域の区長)
- ・子どもたちをはじめ若い人たちに参加を促し、協働活動できるプロジェクトを立ち上げてほしい。(子供会保護者)

参加者の声

- ・毎年、地域交流会が行われ楽しみにしている。特に植樹した木の成長が楽しみ。(母親)
- ・森林の話や地球温暖化の話が良かった。(小学生男子)
- ・サクラを植えたのが楽しかった。(小学1年女子)



サクラ、モミジを植樹 (地域交流会)



天の川の水質検査



活動地入口の草刈り



ヒノキの間伐

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
植付本数：15本
下刈面積：0.73ha
間伐面積：0.1ha
森林資源活用：29本
水質検査：3回
地域交流会：1回

参加者数

県内：48人
計：48人

樹種

サクラ、モミジ

みんなの家でみんなの森づくりプロジェクト③

山梨県大月市



事業概要

本事業の拠点である「みんなの家」周辺には、手つかずの森林が多く残っている。高齢化が進み森林整備ができる人がいないためだ。そのため、地域の森林を守るとともに、都市部では体験することのできない森林での活動を通して自然との共生や重要性に気づくことを目的として活動を実施した。主な活動は以下のとおり。①幼児を対象としたキャンプ、8月と11月に実施。②幼児を対象にしたデイキャンプ、10月と12月に実施。③当法人ボランティアスタッフが行う森林整備、7月から3月に計14回実施。

事業成果

都市部の子どもたちにとって里山や林業は身近なものではなく、子どももスタッフも多くのことを感じ学び体験することができた。近隣住民は、自然(里山、動物)と日常的に共生しており、今年度はそうした住民の方たちに活動に協力していただいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 幡野地区(活動拠点)に多くの子どもたちや若者が来てくれて活気にあふれている。定期的に来てくれ、森林整備を進めてくれることで獣害も減ってきた。(70代男性)
- ・ 子どもたちの声や顔を見ると元気が出る。何か困ったことがあったらすぐに教えてほしい。(70代女性)
- ・ この地域にはもともとホテルや川魚がたくさんいた。少しでも昔の風景や環境に戻したい。(80代男性)

参加者の声

- ・ いつもはできないことができてたのしかった。(幼児)
- ・ ノコギリがつかえたよ。木のおいっていいにおい。たからものにする。(幼児)
- ・ ここに来ると自然と一体化できる気がする。風の匂いか自然の音とか普段感じられないことが感じられる。(20代女性ボランティアスタッフ)



自然に親しむ子どもたち



川遊び



休耕地や森林を整備



活動拠点・みんなの家

実績とりまとめ

作業内容
 除伐面積：4ha
 間伐面積：2ha

参加者数
 県内：2人
 県外：81人
 計：83人

オオムラサキ舞う故郷の里山再生

山梨県北杜市



事業概要

国蝶オオムラサキの最大級の生息地である里山林が荒廃している。オオムラサキの生息地再生で故郷を元気にするために、アカマツ林皆伐地にオオムラサキの好むクヌギ・エノキを植林した。また、これまでに植林した場所で、育苗のために下刈を行い、管理放置の里山林の間伐、枯損木の片づけを行い、生息環境の改善を行った。

事業成果

里山を再生する活動の成果は、景観も改善して目に見える形になっている。こうした成果で、活動に参加する若者や女性が増えて、活動層の高齢化の中で新しい力になりつつある。活動の中で、間伐材などを薪にして販売しており好評で需要が増加し行政から大型薪割り機を貸与された。

事業をよく知る関係者の声

- ・頼りにできる存在である。困りごとは相談したい。(市林政課職員)
- ・感謝している。地域の景観が良くなっていると感じる。(地域住民)
- ・管理できない山を、きれいにして植林までしてもらい本当にありがたい。(森林所有者)

参加者の声

- ・オオムラサキの舞う里山づくりに参加して満足している。
- ・故郷の里山が改善している様子に、やりがいを感じる。



植樹地の整備



クヌギを植樹



緑の少年隊も参加



薪づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.2ha
 植付本数：6100本
 下刈面積：24ha
 間伐面積：1.4ha
 森林資源活用：200m³

参加者数

県内：602人
 計：602人

樹種

クヌギ

猿投山北西山麓の環境林整備

愛知県瀬戸市



事業概要

目的は、名古屋近郊にある県有林、東大演習林、私有林を生物多様性のある豊かな環境林として整備すること。主な内容は、放置されている人工林の間伐、自然観察道の整備（ササ刈り・除伐・道路の保全）を実施。訪れる散策者・ハイカー・登山者などに森の恵みを感じてもらった。「せと環境塾」では炭焼き体験、「なごや環境大学」では“森からのプレゼント”の講座で間伐・シイタケ植菌・腐葉土づくり・植樹などを行った。

事業成果

感染対策をしながら人工林の間伐、雑木林・自然観察道の整備は予定通り実施。炭焼き体験や「なごや環境大学」の

“森からのプレゼント～腐葉土・飾り炭・シイタケづくり・植樹体験”では多くの家族連れが参加し好評であった。

事業をよく知る関係者の声

- ・「なごや環境大学」の事務局が当会の活動を評価しPR用動画に採用された。林内散策者からは“いつもありがとう、ご苦労さん”“森が明るくなり気持ちがいい”と声をかけられるようになった。

参加者の声

- ・活動できて良かった、森は3密になりにくい。(環境大学)
- ・腐葉土づくりは楽しい。(小学2年女子)
- ・シイタケ原木づくりは家でもやってみたい。(幼稚園児の父親)



コナラを植樹



落ち葉でたい肥づくり(なごや環境大学講座)



間伐材でベンチづくり



東海自然歩道の枯損木除伐

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：32本
 除伐面積：0.6ha
 間伐面積：0.5ha
 自然観察道整備：1.8km
 作業道整備：1.2km
 イベント：5回

参加者数

県内：766人
 計：766人

樹種

コナラ

境港市竹内西緑地マツ林復元・整備事業

鳥取県境港市



事業概要

竹内町は境港市の日本海側にあり、その海辺はかつて引網も盛んに行われ子どもたちの遊び場でもあった。平成元年に埋立て工業団地となり、住宅地との間に竹内西緑地を設置した。昭和50年代にマツが植えられ整備された。しかし、マツクイムシや塩害・雪害等で雑木林になった。竹内西緑地を美しい白砂青松に復元することを目的に、5.7haの雑木林を開墾・整備しマツを植え遊歩道設置を進めた。今年4000㎡を開墾・整備し、マツとサクラを植樹をした。

事業成果

開墾整備の取り組みは8年目になる。開墾・整備し、マ

ツ500本とサクラ26本を植樹した。今年度より、JT鳥取支店と連携してSDGsの取り組みも始めた。

事業をよく知る関係者の声

- ・事業を始める前と比べると見違える様になっている。すばらし事業なので、もっと多くの人に参加しやすい環境を作ってはどうか。たとえば、取り組み内容をチラシやホームページ等で広報など。(公民館職員)

参加者の声

- ・どんどんきれいになっていくのが嬉しい。
- ・遊歩道もできたので最近では散歩コースに入れて歩いている。



クロマツを植樹



サクラを植樹



下刈



枝打ち

実績とりまとめ

作業内容

開墾面積：0.4ha
 整備面積：0.5ha
 植付面積：0.45ha
 植付本数：500本
 草刈面積：1.5ha
 枝打ち面積：0.4ha

参加者数

県内：461人
 計：461人

樹種

クロマツ、サクラ

東京五輪開催記念植樹祭

広島県廿日市市



事業概要

植樹祭を国民の祝日「山の日（8月11日）」に小室井山（標高1072m）の山頂付近で行った。参加者自身の手で植えて育てる。活動を通して、山の恩恵を見つめ直し、山の恩恵を深めていくことを目的に植樹をした。今年はコロナ禍の影響を受け10月4日に行った。主な活動は次のとおりである。

- ① 7月9日実行委員会を開催し植樹祭の方針を決定した。
- ② その後、コロナ禍影響を受け延期、国の感染防止対策が緩和された10月4日に植樹祭を開催した。
- ③ 小室井山に登り、山頂付近に一人2本の苗木を記念植樹した。
- ④ 事前に地拵えを行い植えやすい環境をつくった。また、安全に登山するため登山道整備（草刈り）を行った。

事業成果

参加者に植える苗木1本と給水用ポット（2ℓ）を持って登山してもらい植栽、達成感を感じてもらった。コロナ禍の中で工夫を行い、3密を避けて実施した。各人が蓄積し

ていたコロナ禍ストレスを解消することができた。

広島市内の施設の児童（知的障害者）36人が参加した。お互いへの思いやりを学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・継続した植樹活動は、苗木の成長を確認することで森林保全活動への参加意識の向上につながる意義のある活動である。（公務員）

参加者の声

- ・毎年家族で参加している。植えた木が大きくなり自分の木も5本に増えた。花が咲くころに来たい。（中学生）
- ・最初は戸惑ったが指導を受けて、苗木を植付、記念に名前と思いを記した札を付けた。花を咲かせる時期にまた来たい。（40代男性）
- ・花の咲くころが待ち遠しい。（50代女性）
- ・知的障害者を連れて参加した最初は心配したが子どもたちは元気に輝いていた。（施設職員）



登山道を整備



植樹地を整備



記念の名札を付ける



レンゲツツジを植樹

実績とりまとめ

作業内容

草刈り：2000m（登山道）
 地拵え面積：5ha
 植栽本数：200本

参加者数

県内：141人
 計：141人

樹種

レンゲツツジ

森林づくり活動と森林資源の利活用を体験

鹿児島県始良市、霧島市



事業概要

森林に対する知識を深め森林づくりの重要性を認識してもらうとともに、森林を身近に感じてもらうことを目的に以下の活動をする。センリョウ・イチヨウの植栽体験による森林づくり活動、森林の役割や働きについての講話、薪割、丸太切り、花炭づくり、タケ輪挿しづくり、タケノコ掘り等の森林資源の利活用を体験してもらい、豊かな森林づくりに対する理解と定着を図る。

事業成果

新型コロナの影響で参加者は大幅に減少したが、工夫を凝らし全イベントを実施できた。なかでも、植栽体験による森林づくり、森林の恵みを利活用したふれあい体験活動は、高評価をいただき、引き続き森林環境教育を推進していくうえでの自信にもつながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・全イベントの実施をやり遂げたことはすばらしかった。当法人の活動は、森づくり活動、森林資源有効活用、特用林産物体験活動と、参加者は楽しみながら多くのことを学び理解を深めている。今後は、若い世代の参加をより多く誘引できるよう事業にも期待している。

参加者の声

- ・空気のきれいな森林で様々な体験活動ができ、久しぶりに楽しい時間を過ごせた。
- ・植樹体験をしてみたかったので嬉しかった。秋になったら、自分の植えた木と共に黄葉の景色を見に来たい。
- ・森林体験にはたくさんの活動があることに驚きでした。



タラノキ植樹



タケノコ掘り体験



丸太切り体験



タケについて学ぶ

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：410本
 下刈面積：0.6ha
 地拵え面積：0.36ha
 施肥面積：0.33ha

参加者数

県内：194人
 計：194人

樹種

タラノキ、センリョウ、イチヨウ

渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業

栃木県日光市



事業概要

目的は、銅山の煙害で荒廃した足尾の山に木を植えることを通して、自然環境の健全化に貢献すること。主な活動は以下のとおり。①植樹後の下刈や枝打ち等の管理作業(毎月第3土日の作業デー) 今回はコロナ禍で一部中止となった、②小学校を中心とした団体の植樹活動の支援(体験植樹)、③ボランティアを募集し植樹会を開催(春の植樹デー)。

事業成果

昨年度はコロナ禍により中止とした春の植樹デーを、開催回数を増やし参加人員を分散させ、また開会式等を行わない等の工夫をし今年開催できた。開催回数を増やしたことで、今まで参加できなかった人が参加できるようになった。また、急斜面で土壌流出が激しい植樹地に柵を作り、黒土を入れる作業を行うことができ、苗木の活着率が高くなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹体験の際に、過去に植えた苗木を見ながら解説すると、植えた苗木の成長が想像できて良いのではないかと。(関連企業)
- ・足尾の歴史を学ぶことや植樹体験は、多くの子どもたちに体験してもらおうと教育的に良いと思う。広く周知してほしい。(小学校教員)

参加者の声

- ・大変貴重な体験を行うことができ、子どもたちも環境についてしっかりと考えられたようだ。長く継続していただきたい。(小学校教員)
- ・今回植えたのは3本のみだが、周りを見渡すと小中高生が植えた木々が広がっていた。このように一人ひとりの貢献はわずかでも、大勢が行えば大きなことが成しとげられる。(大学生)



土が流失しているところに黒土を入れる



コナラ、クヌギほかを植樹



ていねいに植樹



森づくりについて学ぶ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.8ha
植付本数：7634本
イベント：60回

参加者数

県内：1606人
県外：654人
計：2260人

樹種

コナラ、クヌギほか

湘南国際村めぐりの森づくり

神奈川県横須賀市、葉山町



事業概要

「湘南国際村めぐりの森」は、民間業者により約25年前から300haの開発が行われていたが、業績不振に陥った民間会社から県へ無償譲渡された土地112haである。そこを土地本来に生育する常緑広葉樹林に再生する気運が高まり、神奈川県は2008年より森林再生を市民による協働参加型による活動を始めた。自然環境の復元、里地里山の持続的管理のための社会的枠組みや利活用方策等に関する普及啓発に寄与するものと考えられる。具体的な内容は、①通年の育樹、②通年の荒廃地の大地再生施工、③通年の各種調査、④植樹用マウンドの施工、⑤年間2回の公開イベント植樹祭、⑥実地訓練型「森林再生指導員」認定事業、⑦通年活動には一般ボランティアの体験参加も受け入れ、コロナ禍にも関わらず年間のべ450人の参加（植樹祭以外）があった。

事業成果

厳しい環境下でも年間の森作業を継続し、第20回春の植

樹時には植樹祭の開催がなかった。半日で3000本の植樹が終了し、育樹等のメンテナンス作業時間の確保ができた。今季も無料の植樹祭イベントとして開催でき、家族連れの参加が多く次世代育成の足がかりともなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・混植・密植方式植樹推進グループが所属する協働参加型めぐりの森づくり推進会議による全体会議が5月に開催され、推進会議会長からは、「細部まで配慮された有意義な取り組みだった」とのコメントがあった。県からは、「感染者ゼロの実績のある混植・密植方式植樹推進グループには、全面的信頼をおけ安心して見守ることができた」との言葉があった。

参加者の声

- ・何回か参加している、以前に植えた木々の成長も見たい。
- ・コロナで在宅やリモートが増えて運動不足だったが、森での作業でリフレッシュした。



植樹の説明



121種の苗木を植樹



山道づくり



草刈りと粗朶づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：4000本
大地再生：0.07ha
風の草刈：0.2ha
育樹：0.2ha
植樹施工：0.07ha

参加者数

県内：935人
県外：402人
計：1337人

樹種

常緑広葉樹

菊炭と里山を未来につなぐプロジェクト

大阪府能勢町



事業概要

伝統燃料である「菊炭」の継承と里山の緑保を土台として参加者が森林活動にかかわることで心身健康保持増進に努める。また森林ESDの視点から幼少期から山に触れる機会を提供し、子どもたちの生きる力の獲得に寄与、さらにはこうした活動が地域の活性化につながることをめざす。主な内容は、①ドングリのホームステイ事業、地元のドングリを拾いポットへ移植活動を行うとともに購入苗の植樹と一連のサイクルを行った。今年度は森林ESDを意識して都市の幼児や児童へのPRを行い、隣接市の小学校でドングリのホームステイ事業を開始、また親子活動としての植樹会も開催した。②間伐材を使う菊炭グリーンウッドワークでは、生木に触れる体験会とイス作りを行い、森林資源を生活に取り込む体験を行った。

事業成果

ドングリのホームステイ事業を拡充した。個人レベルで

の参加のみならず小学校と連携し出張活動で校庭での菊炭と里山の話やドングリのポット移植活動を児童と共に行った。菊炭の伝統文化や自然環境保全について伝えた、2年後にはその苗を山へ戻す植樹活動へとつなげる。また植樹活動では、前年度試行のドングリ苗を植樹することができ地域での循環が可能であることを確信した。

事業をよく知る関係者の声

- ・何年も協働で植樹活動をしているが、子ども達が参加してくれることは自分たちの活動の励みでもあり、未来に期待を持てる。(都市部の森林ボランティア)
- ・見ると聞くでは大違いだ。さらに幼少期の山作業の体験は机では学べないことを子ども達に気づかせてくれる。(小学校教員)

参加者の声

- ・自分が育てた苗が山で育つのを見守りたい。長い先で菊炭になると思うとワクワクする。(都市住民)



小学校での「ドングリのホームステイ事業出前講座」



クヌギを植樹(菊炭と里山を未来につなぐ植樹会)



ネットで苗木を保護



木工クラフト体験(菊炭グリーンウッドワーク)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.21ha
植付本数：560本
下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.2ha

参加者数

府内：183人
府外：7人
計：190人

樹種

クヌギ

グリーンベイ OSAKA 森を育てる活動

大阪府堺市



事業概要

目的は、東南海地震が発生した際に大阪湾岸の都市部を襲う大津波の緩衝地となる海岸防災林の植林と保全を行うことである。そのために、大阪府堺市の産業廃棄物最終処理場であった埋め立て地で植樹を行う。主な活動は、①25㎡×30ヶ所に13種の苗木の植栽。②大型除草機械を使って除草と土壌改良、作業用道路の除草と整備。③繁茂するツル類対策と緑地の保全。

事業成果

広範囲に生い茂る雑草やクズなどの除去を効率よく行ったことは、防災林の造成には必要だと学んだ。それは、ボランティアの参加者が多く、これまで植栽樹木の周囲の雑

草を時間をかけて取り除くからこそ、感じることができると思った。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加したメンバーが、うっそうとした樹木に驚き、10年間の歳月の結晶と感心していた。また、主催者側メンバーの高齢化にどのように対応していくのが課題だ。(参加メンバーの友人)

参加者の声

- ・参加した人はそれぞれの仕事を持ちながら10年以上活動に関わっていることがすばらしい。
- ・2m四方の除草に30分くらいかかった。大変な仕事だと思う。(リピーター)



親子で植樹



アキノレ、エノキ、タブノキなど13種を植樹



クズの除去



植樹地

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.075ha
植付本数：420本
下刈面積：0.34ha

参加者数

府内：40人
府外：6人
計：46人

樹種

アキノレ、エノキ、タブノキ
など13種

揖保川源流の森づくり

兵庫県宍粟市、明石市、姫路市、神戸市



事業概要

揖保川の自然風土を後世に引き継ぐ活動を通し、地域住民の森林に対する意識を高め、地域で交流をはかり、地域の森づくりを推進すること。

事業成果

新型コロナウイルス感染拡大を考慮して、役員のみで小規模ながらも150本の苗木を植樹した。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹範囲が曖昧で、植樹する十分なスペースが確保できていなかった。
- ・どこにどれだけ植樹するかを明確にし、参加者全員がわかるようにすればさらにスムーズに植樹会を行えるのではないか。

参加者の声

- ・近隣の山や公園などで拾ったドングリを持参した。
- ・今回のドングリ拾いは参加者が少人数だったが、たくさん拾えてよかった。



ドングリ拾い



植樹



植樹会の参加者のみなさん



下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
植付本数：150本
下刈面積：2ha

参加者数

県内：78人
計：78人